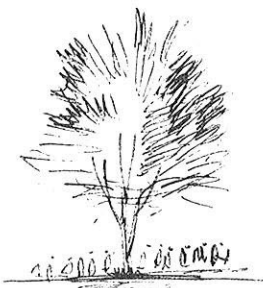


光の子



No. 79 1998. 8. 1.

● 神の召しに応える（ヘブライ人への手紙第5章4節）



「床屋はママよ」

え・中島英子

暑中お見舞申し上げます

社会福祉法人 光の子どもの家

「盆道」

涼しさをあつめてゐたる煤柱

改札に嫂さんがゐる帰省かな

盆道をつくると夕日まみれかな

草ぐさに水の香はしる盆の入

かりそめの世のかりそめの盆の道

遠山に夕映のこる門火かな

地獄耳利かせておはす生身魂

黛 執（『春野』主宰）

神の召しに応える

ガラテヤの信徒への手紙 5・6

キリスト・イエスに結ばれていれば、
割礼の有無は問題ではなく、愛の実践を伴う信仰こそ大切です。

理事長 福島 勲

礼拝中に居眠りをする人がいる。目障りだ、不謹慎だ、失礼だと思う。が、思い直して、ひよっとすると働き者の彼、昨夜も徹夜したのかも知れない。それでも礼拝に出ている。偉い。

眠れないといっている父親に、子どもが、お父さん教会の椅子を持つてこようかという、ドイツの笑話を思い出す。どこの国でも説教中に居眠りをするのだな。自分の説教で心地よく眠れるとすれば結構なことだと、下手を棚に上げてあらぬ説教の効用に自ら慰める。

やがてその人が糖尿病だということとがわかって、座るとすぐに舟を漕ぐ病の気の毒さに同情する。

物事、ことに人間関係で真相を知るまでには時間がかかる。即断を避け熟慮を怠ると誤ることが多い。説教中眠る話は聖書にもある。

パウロがトロアスで福音を伝えたが、話がながながと続くので、ユウティコという若者が居眠りして三階から落ちた。(使徒言行録・二〇・七)パウロは折ってこの青年を蘇生させたが、われわれ不信仰な者にこのような賜物はない。

長い話には辟易する。しかし昔の有名な神学者や牧師の話は長かった。アウグスチヌスやカルヴァンなどの

説教は長い。

この頃の早口のアナウンサーに読んでもらっても、とても一時間くらいで終わりそうにない。

時代が変わって気忙しくなったこのごろ説教は三〇分ぐらいが基準のようだが、すでに米国などでは二〇分だと聞いている。

このところ説教を聞く側に廻って聞いていると、二〇分の話でも充分福音が聞けるように思う。

水野源三という人の詩に、
「神様、今日も御言葉を下さい。
一つだけで結構です。」

私の心は小さいですから、たくさんいただいても溢れてしまいません、もったいないので」

いうまでもなく大切なのは説教の長短ではない。真に福音が語られみ言を正しく受け取るか否かということである。

語る方も聞く方も、キリスト教の百科事典のように、知っているだけでは済まされない。

知的に快感を覚え満足するということが信仰の本領ではない。

神のみ旨を知り、その恵みを悟って、これを実践してこそ、真の信仰である。

アウグスチヌスは愛を説いた。彼

の時代、修辭学やギリシャ思想の盛り込んだ説教が多かった。

このような中で、アウグスチヌスは愛の業の伴う信仰を説いた。

神を愛することが中心で、これから隣人を愛することに及ぶ。己のごとく隣を愛することである。

この時のおのれは単なる自己愛ではない。神を愛することによる自己愛である。「最高の施しは、他の罪を赦しめえ愛することである。」と彼は言う。

愛とは確かに他者の立場に立って見、考え、話す、ことであり、このとき完全に彼にのめり込んでしまうというのではなく、神を愛するおのれの位置を失わないことである。

世俗の愛は盲目であっても、聖なる神の愛は知情意の完全の上にある。神の愛にあずかるとき、盲目の愛であらうはずがない。

この愛は良心に照らして恥ずることのない愛である。良心とは知的程度や社会的習慣で左右されるものや主観的な判断というものではない。

権力や富や財宝、また名誉名声に揺れ動く良心ではなく、それはルターのように神の言に捕らえられたものである。それゆえにまた、何ものにも拘束されない全き自由な愛である。

エッセイ

喜ばれた小さな絵

一枚の小さな絵が、小さなドラマを演出することがある。

もう四年か五年も前になろうか、ある絵を描く会に出た。自分で描きたい物を持ち寄って、それぞれ好きなように描く集まりである。指導者はいない。

たいていの人が、花だとか、果物だとか、ウイスキーのビンなどを持ってきて、バックに布を下げたりして静物画を描くことが多い。その時、私はたまたま何も用意する物がなかったから、小さなビン類だけを集めて持って行った。油絵を描く時に使うテレピン油、リンシードオイル、それに乾燥をうながすシッカチーフ、それらが、まだ一杯に入っていたり空っぽだったり、色も赤っぽいのが黄色いのが、多少の変化はあった。

みんな気持ち良さそうに花や果物などを描いているなかで、私は冷たいビン類だけ。少しつまらなくもあったのだが、だんだん描いているうちに調子に乗ってきて、他の人たちと同じようなペースで、どんどんと描けた。柔らかな金属製のペインティングナイフも、思い切り使って仕上

げてみた。自分では、ある程度納得できたのだが、一般性はなく、人からは好まれない絵の部類に入るものと思われた。

こんないきさつで、一枚の小さな絵が生まれたわけである。

ところが、あんなに熱心に描いた絵でも、描きあがって絵の具が乾燥すると、どこかへ重ねたり立てかけたりして、その絵のことを忘れてしまふことも多い。このビンの絵も、その口であって、その後二・三枚同じような絵を描いたのだったが、殆ど忘れていた。

夏の暑い或る日、突然A子さんから電話がかかってきた。姉さんと一緒に遊びに行きますとことだった。やがてやってきた二人と、お茶を飲みながら雑談していると、A子さんが言った。

「あの絵、見せていただけますか？」

「あの絵って、どういふんだっけ？」

「あのビンの絵です。ほら、小さいビンが何本も立っているやつです。」私は、思い出した。あのビンの絵。そして大小二枚のビンの絵を探し出して、A子さんの前に持っていた。

「あ、これです。この小さい方の絵です。」

彼女は、懐かしむようにその絵を眺めていたが、突然言った。

「この絵、譲っていただけませんか？」

私は困惑して

「いやあ、そりゃ構いませんけど、この絵は五〇年持っていて、値打ちは出ませんよ。」と言った。

彼女は笑いながら、右手で私の言葉をささげつつ、

「三年ぐらい前で見たんです。気に入ってしまっただけで、忘れられなかったんです。それで今日は、思い切って譲ってもらいに来たんです。」と言った。彼女は、一種の思いつめたような表情を見せた。

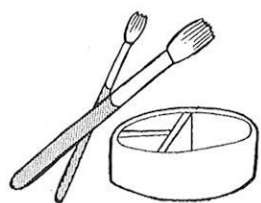
私は、びっくりしてしまった。何でもない小さな一枚の絵を、彼女が何年も心にとめてくれてたかと思うと、有り難い様な、申し訳ない様な気持ちになつていった。決して華やかな絵ではない。むしろ地味で、その上、あまりうまくない絵かも知れない。それなのに、この一枚の絵を好んでくれる人がいるの

彫刻家 中島 陸雄

を知ると、心の底から喜びが湧いてくる。無言の励ましを感じる。こんな嬉しい事はない。

あれから何年かたった。今あの小さなビンの絵は、A子さんに大事にされている筈である。それは、あの小さな絵にとっても、最も幸せな有り様と言えるよう。

これが、私の小さな絵がもたらした、私の心の中の小さなドラマなのである。



学もどきのつぶやき ③ バリ島にて

山形大学医学部教授

仙道 富士郎

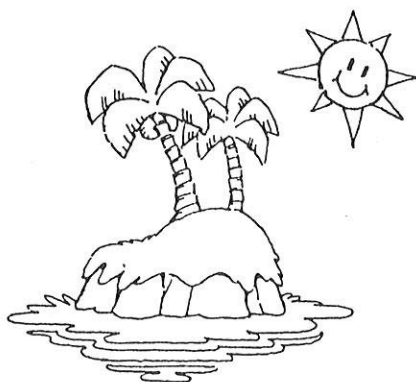
症対策会議という、日本語に訳すとなら訳の分からなくなってしまう会議がバリ島で開催され、出席した時のことである。〇ー157など、これまであまり経験したことのない型の感染症が最近とみに増える傾向にあり、その対策をアジアと米国の研究者が集まって討議しようということなのである。

しかし、全く観光はなかったかという、そうでもない。そもそも、会議の開催場所としてバリ島を選んだ主催者の意図からして、会議プラ

開会式とレセプションの時に見せていただいたバリの踊りだけでも、この島を訪れた甲斐はあった。私の故郷は秋田の西馬音内という田舎であるが、盆踊りが有名である。繊細な指先の表情と官能的とも言える腰の動きは自慢できるものだが、この度のバリの踊りを見て、これはとてもかなわないと実感させられた。テレビなどで見たことはあったが、実物はテレビで見たものとは似て非なるものと言えそうなるほど素晴らしいものであった。様々に折り曲げられ、妖しくふるえる十本の指たち、瞬時に向きを変える首と目、くねくねとくねる踊り子の腰、私は一瞬も見逃すまいと目を凝らした。女踊りと男踊りの違いは、またまた故郷の盆踊りを思い起こさせ、中国の京劇に出てくる役者とそっくりの装束の踊り手はアジアの文化の流れを感じさせた。いや、私のつたない筆など、バリの踊りを汚すばかりである。それにしても、踊りに認められるこの高度に発達した文化は、どんな歴史のなかで培われてきたのだろうか、バリ島の歴史をいつかひもといいたいとも思った。

会議初日の午後は自由時間で、友人たちと島の観光に出かけた。段々と話がふくれ上がってしまい、米国の研究者達も加わり、バス一台の大集団になってしまったが、これが裏目に出た。乗り込んだ米国の女性二人が、運転手に行き先を指図し始め、おそらく運転手がリベートをもらっているだろう土産物屋にバスを止めようものなら、「ノー、ノー」と激しく抵抗し、阻止する。三〇分以上もバスは走ったのだろうか。彼女らの目指す、土産物屋が群集する市場に到着した。確かに品数も多く、私もお面などを買い込んだ。一時間半の買い物タイムが終了し、皆がバスに乗り込んだが、件の女性のうちの一人が見あたらない。皆が心配しはじめた頃はもう十五分も約束の時間を過ぎてしまっていたが、彼女は悪びれもせず、リュックサックに買い物をつぱい詰め込んで、ニコニコしながらバスに乗り込んできた。何という人だろうかと思った。ところが、それだけでは済まず、帰りに寄った銀細工の店で彼女はまたまた皆を十五分待たせた。後で素性を聞いてみると、米国立保健研究所の高い地位にある人だと判った。こんな人は日本ではとても偉くはなれそうもないのにと、いまだにこの点は合点がいかない。

何はともあれ、往復のバス一時間以上、買い物時間二時間、彼女に待たされた時間三十分などで、お寺のひとつも見学することもなく、私たちのバリ島観光は終わってしまった。翌日は終日会議で、一步もホテルの外に出ることもなかった。いや出られなかったのである。ヒンズー教のお祭りということで、島にいる人間は、観光客も含めて終日禁足令に従った。街は車一台通らず、静まり返っていた。夜になっても、ホテル周辺の家屋から漏れてくる光もほとんど認められなかった。人々は戸を閉め切って、終日、祈りに暮れていたのであろ



2つの文化に生きる 13

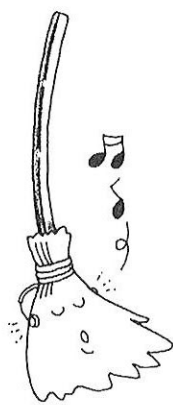
日本キリスト教団東大宮教会
バーガー 京子

小さかった頃はけんかをしながらも二人で一緒にじゃれるように遊んでいた子どもたちだったが、最近は何となく行動をともしないようになった。気がついてみると、中三の息子は遙かに私の背丈を超え、風邪声が治らないのかと思っていたら声変わりである。小六の娘の身長も私をもうすぐ追い越そうとしている。どうりで二段ベッド、一室に二人で一緒に住めなくなってきたわけだ。

長い休みを利用して部屋の大移動をした。今まで二階にあった三部屋は一室は夫婦の部屋、一室は子どもたちの部屋、もう一室は夫の書斎となっていたが、この際、夫の書斎をなくして子どもたちの部屋にすることにした。二段ベッドをはず

して二部屋に分ける、いろいろなおもちゃや壊れた物は処分するなどの作業は延々と続いて、実は未だに部屋の隅には片づけきれない物が箱に入って積まれている。それでも子どもたちは「自分の部屋が持てた」ことに大満足のようで、娘からはカーテン、ベッドカバー類の注文があり、私も久しぶりに朝から晩までミシンを踏んで、アッという間に部屋の模様替えが出来た。自分の部屋を持てたことで二人ともとても責任感が出てきた。自分の責任で部屋はきれいになるのを知ってか、片づけを進んでいとも楽しそうにやっている。

実は、この大移動で押入の中をかき回したおかげで、ある宝箱を見つけた。それは何と、私が二〇年前にアメリカで大学生だった頃の二年間の授業のレポートや論文がすっぽり全部入った段ボールだった。ぎっしり詰まったタイプピングペーパーのファイルをひとつ一つ開いていくと、まるでタイムカプセルでも開けたような不思議な気分になってくる。専攻は英語だったため、文学についての小論文などが多い。そういえば大学三年に編入したばかりの頃は教授の言うことを一言も聞き逃してはいけないと、テープレコーダーを教室に持っていたこともあった。授業の



プ・リ・ズ・ム

河のほとりで 倉沢家

「倉ちゃん、はい、これ。」

五月の日曜日に亜紀が私のところにやってきて小さな封筒を差し出した。封筒の中には髪を止めるためのピンと心のこもったカード。

（倉ちゃん、いつもいつもありがとう。今日は母の日ですね。・・）カードにはこう記されてあった。

亜紀は実母を知らない。時々他の子に「私のお母さんってどんな人かな、会ってみたいな。」などと話しているようだが、私には直接言ってきたことはない。力不足ではあるが、母親に代わられるようにつとめていることを知っている彼女は、私にそれを言ったら申し訳ないとも思っているのだろうか。

本当ならば、亜紀に母の日のプレゼントもカードももらえようような働きなどしてない私ではあるが、心が広くやさしい亜紀は、プレゼントの他にも、「今日は母の日だからねー」と、普段私がしている階段も、廊

下も、玄関も、全部キレイに掃除をしてくれた。
この次の母の日には、心やさしい亜紀にふさわしい「母」になれるような私でありたい。 倉沢 智子



子どもたちの季節 仙道家

暑中お見舞い申し上げます。

ざらざらの暑い夏がやってきました。この四月から仲間に加わった五木田さんが、倉庫にしまい忘れていたかき氷器を出して、シロップと氷を子どもたちのために買ってきて下さった。

しかし、その手動式のかき氷器は、長い間使っていなかったためか、がりがりと氷をかくレバーのところが脆くなっていて壊れてしまいました。しかし、すぐ五木田さんが直してま

た使えるようになりました。

小学生の詩美や由花は楽しそうに、ガリガリとレバーを回し、氷をかいています。

暑さのため、手早くやらないと細かく砕けた氷は、たちまち水になってしまいます。

汗だくになって作ったかき氷は、たとえ半分水になっても、イチゴやらメロンやらお好みのシロップをかければ、御馳走です。

夕食後も、環や悠子、一志の中学生たちがガリガリやっています。

そして、「祐子さん、回して！おさえてて！」と手伝わされます。

ガリガリ作っては食べ、食べてはまたガリガリとレバーを回して氷をかく。そのことが特に環は楽しいらしく、なかなか終わりに出来ない。

「九時には終わりにしよう。」と、声をかけ、かき氷大会は終わりと、それから数日たち、子どもたちの様子を見ていた五木田さんが電動式のかき氷機を買ってきてくれました。

これからは、際限なく食べ続けるのではなく、一皿のかき氷を、味わ

い、楽しみたい。

この夏、楽しみがまた一つ増えました。五木田さんありがとう。

池田 祐子



暮らしの彩り番外編 笹山家

とうとう笹山家の笹山恵理保母が、ダウンしてしまいました。

五〇日ほど前に、身体の事情があつて離れて本家で生活していた姉妹の三才の妹を、姉妹関係を再形成していくことを目標に、担当を本家から姉が生活していた笹山家に受け入れたのです。しかし、これが何ともツワモノで、ウンと強度な見捨てられ症候群の症状が表現されて、笹山さんの腕を、胸を、体を、そして二四時間フルタイムでの抱っこを求め続け、丁寧にそれに対応していた笹山さんは、見る見る痩せて、疲労

の極みと見受けられ、一週間以上の休養を命じました。

そんなことで、今回は笹山家の報告を休載します。

本誌がお手元にわたる頃には、元氣な笹山さんが子どもたちとの生活に取り組んでいることと思います。

施設長 敬白



原田家日記

田に植えられた苗が、一日一日背を伸ばし柔らかに揺れる頃、美夏はやってきた。手をつないで登下校しながら、「このお米、何才？」と聞く。「三才ぐらいかな」「こっちのお米は？」「もう、大きいね、小学生かな」そんな会話をしながら、実りの季節へ思いを馳せる。稲が黄金色に輝く頃、きつと、一回り大きく、心も体も成長しているだろうと。

三歳児、といってもおかしくない。ひとつ飛びに三年生になったような美夏に併走しての生活も五〇日にな

ろうとしている。

いつも、二つの課題に追いかけていている。取り戻さなければならぬ部分と、リアルタイムの今を生き抜いていく部分。赤ちゃんになりたいというストレートな甘えと、年長者さへひるんでしまう大人びた一面。甘えと攻撃。待つことの大切さと待つてはいられない焦り。アンバランスをそのまま受けとめる度にふらついてしまう。といっても、何より大変な思いをしているのはきつと、本人に違いない。

花にたとえれば、ひまわり。明るく陽ざしがよく似合う。ぽつぽつと顔が、あつち向いたり、こつち向いたり、いつも太陽を求めていく。果物にたとえれば、桃。みずみずしく、傷みやすい。生き物にたとえれば、蛙。じゃない方がいい。あはれ出会って間もない頃の散歩道だった。車にひかれたカエルを見て早口につぶやいた。「カエルに生まれればよかったな。そしたら死んじゃえるのに」その時から、全ての目標は「生まれてきて良かった」と思える日々を送らせることだと思った。

学校の先生たち、お友だちには恵まれた。明日から夏休み。元氣いっぱい自分の足で歩み始めている。

竹花 信恵

光の中で

佐藤家

昨年度町と締結した、トワイライトステイ、ショートステイですが、先日、うちにも二人の兄妹がやってきました。ご両親が仕事の都合で朝から夜まで家にいられないとのこと、その一日だけ預かってほしいと言うことでした。

子ども同士や親同士が知り合いの時などでは珍しい話ではないでしょう。ですが、そうではなく、「私の家」に知らない人間が入るといふことに子どもたちも敏感です。

「えー、なんでえ？」

状況を説明したところ、先ず萌季が言い始めた。

「またそうやって、人がいいんだから。いいよ、いいよって。また子どもだけ置いてかれたらどうする？」と加津子が続きました。

最終的には、しょうがないな、というところで、その兄弟の受け入れは決まりましたが、自分の状況と比べたのでしうか。小学生の辰慈は年齢的に近かったのですが、彼らと殆ど一緒にはいませんでした。

幼稚園に通い始めている洋は、自分の位置に危険を感じたのか、その一日私の傍で必死にアピールしてい

ました。

ここでは、担当者とその子どもとの一対一の関係をとても大事に考えています。その関係を創るために担当者を持たない者がどう動くか・それがテーマになっています。どの関係もお互いの努力なしには創ってこれなかったと思っています。けれど、今回のショートステイの受入に際し、こんなに防衛して、一生懸命に守ろうとしてしまうほど脆い関係だったのだと、改めて思わせられました。

この家に、私が求められている働き、子どもとの関係を見つめ直し、確認していく夏休みが、もうそこに来ています。

岩崎まり子



光の子たちと ⑧

暑中お見舞い申し上げます。
今年も本格的な夏がやってきました。子どもたち共々、元気に過ごしております。

夏も始まりの頃、突然の暑さに少し参ってしまった私は、昼寝をしている裕の隣に横になりました。

なぜかその日に限って裕は、私が隣に横になったかと思うとすぐに目を覚ましてしまいました。「もう少しお昼寝しようよ」という私の側で遊び始めます。そして、私を見て「おーこたん、お風邪引いちゃったの?」と言って立ち去りました。そして何やらタンスをゴソゴソいじっています。そして自分のハンドタオルを出してきて、私のおでこにのせてくれます。それから自分のタオルケットを私にかけてくれました。あっちへ行ったりこっちへ来たりしながら何度となく、「大丈夫?」と尋ね、やさしくしてくれます。風邪など引いていなかったけれど、二才の彼の思いやりがうれしくて、しばらく風邪を引いたふりをして、横になっている。そんな午後ひとときがあります。

高校生の紅子は、部活で全国大会の出場が決まりました。滋賀県まで三泊四日で行かれます。そんな折り、彼女から遠慮がちに相談がありました。

「部活の合宿があつて、すごくお金がかかるんだ。どうしよう…」

おまけに翌日までに返事をしなければならぬ。もう高校生なので、財布の事情も考えられるようになったのでしよう。確かに大きな額です。翌日の学校へ行くまでに、施設長とやりとりが出来る状況ではありませんでした。行きたいのかを意思確認すると「行きたい」と言います。それならば「行く」と返事をしたらいいと話しました。

今、彼女は、部活も勉強もとても頑張っています。そして、そのことは周りの者も認めています。高校二年生の夏、勉強のこと、部活のこと、友だちのこと、何事につけても様々な思いがあつて、だからこそ印象深い一瞬一瞬になることと思います。小学生のみんなは、八ヶ岳の主峰赤岳への山登りを目指して準備です。先日、どの山へ登るか、どんな

山に登るかなどを話し合いました。場所と所要時間を三コース提示し、みんなで話し合つて決めてもらいます。一つは四時間二五分の天狗岳、二つは四時間四〇分の横岳、もうひとつが五時間二〇分の赤岳です。どの山も大変なコースです。一年生から六年生までの六人がみんなその難関に立ち向かうのです。リーダーの信一は赤岳の山頂を一度体験しています。しかもその時は、もつと大変な鎖場のあるコースでした。そのためか、少し余裕もあり、年下の子を思いやり、「みんなで行くなら天狗岳ぐらいかな」という発言もありました。五年生の詩美は、もう二年も前から、赤岳へ登る機会を待ち望んでいました。今回はやつとめぐつてきたチャンスです。「絶対赤岳!」と主張し、今回のコースに鎖場がないことにちよつと不満があるほどです。

ちよつと不安そうなのが、一年生の佳美です。三つの山のどれをとつても首を横に振るばかり。「佳美ちゃんなら大丈夫だよ」と初めての山登りの不安を隠せない彼女を励ましま

藤本 曜子

す。三年生の竜二も一番時間のかかる標高の高い赤岳は魅力のようです。山登りが初めてになる由花と美夏もみんなの話の中で、「赤岳がいい」と。最終的に目標地点は、三コースの中で一番大変だと思われる「赤岳山頂」に決定しました。

山登り、と一口に言っても、生命の危険にさらされるようなこともないとは言えません。果たして、このメンバーでどこまで目標を達成することが出来るのでしょうか。山頂は見えてくるのでしょうか。今から、期待と不安が、子どもたちにも、それ以上に付き添う大人たちに見え隠れしています。

それぞれの子どもたちの夏は、もう始まっています。夏休みの終わる頃には、ひとり一人の子どもたちのひとまわりもふた周りも成長した姿が見られることを期待して…。



養護メモ 74

子どもをまもる

児童養護施設は、家庭に何らかの事情があつて家族とともに暮らすことの出来ない子どもたちを、家庭に代わる環境で、親や家族に代わり養育育てることがその目的である。ともに暮らすことが出来なくなつた家庭の事情はそれぞれで、千差万別という言葉がそのままである。

彼が身籠もられた時、父母は覚醒剤に溺れていた。責任などの意識の殆どなかった父母が、生後数ヶ月後に彼を置いて行方をくらました。訝しんだ隣人に発見され危うい命を救われた。TVドラマを超えるマイナスの事実を背負つて彼はやってきた。

生後三ヶ月の時に逆上した父にしたたかに床にたたき付けられ、頭蓋骨を割られて救急入院し、その後病院から乳児院を経て、二歳でここにやってきた女の子。入所の年に生まれた妹も同じように床にたたき付けられてここで一緒に生活している。強大な親権のもと、その父母は逮捕も起訴も責任の追及もされずに何事もないかのように生活をしている。養育など常識的にも無知な母のもとに父に認知もされずに生まれた女

菅原 哲男

の子は、産後数日放置されていた。婚姻外で生まれたその子を、その村落の親族に恥じると、そこそこの暮らしをしている祖父母にも暮らすことを拒否され乳児院からやってきた。

さて、子どもの出生数が激減し、これまでのような税収が見込めなくなったこの国の財政事情が動機、中央社会福祉審議会社会福祉構造改革分科会が中間のまとめを発表した。それにある多くの割り切れない中々でも目を引くのは、市場原理の導入と措置制度の撤廃である。

強大な親権のもとで何をしても許される親や家族の犠牲に曝されてここに逃れてくる子どもたち。たった今もおどろしい虐待の現場となっているA家庭Vと、普遍化という美名で市場原理を導入させ、競争と契約で利用者と利用機会提供者が対等な関係を確立するのだという。

むしろ公的責任をもつと明確にし、親権に介入してそれを制限し、剥奪してでも利益を守るべき子どもたちが、更に激増しつつあるというのに、である。

この大きな矛盾や次元の違いを、

優秀な委員たちや厚生官僚たちはどうお考えなのだろうか。

どうも政府や当局者にとつて、国鉄の分割民営化などの二匹目のドジョウよろしくモータル話を狙っているとしたか思えないのである。

そもそも社会福祉は、生活・生きることに困窮している者を見遇いしに出来ない民間の個人や団体、それらに身を挺して関わり、自らの人生を重ねながら営んできていた。そのような関わりや暮らしなどの営みを、特に戦後、国や地方公共団体などの公的な責任として制度化し、それぞれの必要に応じて業種や規模、形態などを拡大多様化させてきた。

誰も関わりたくないか、見ないように避けてきた分野を、公的な責任としてこれを取り上げてきたことは、評価し意義を確認するものである。

しかし、「改革」という言葉を唱えながら、公的な責任をうやむやしようにしている当局の狙いが透けて見えるのである。

しかも、これをすすめてきた審議会や委員会のメンバーに、私たちの尊敬すべきリーダーや先達が責任者として参画しているのである。

教えていただいた民間社会事業の責任の重大性と、それが持つべき開拓性、先駆性、実験性、批判性・

座右の銘としてきたこの精神は、導入される市場原理で動いている企業の分野にもびつたり妥当することに苦笑せざるを得ない。

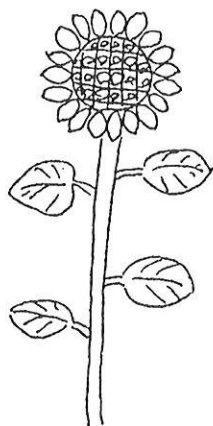
何としても、この領域に積極的に市場原理を導入するというには大きな抵抗感を禁じ得ない。

市場原理とは、利益至上原理でもある。TVのCFに「共に生きる」とか「やさしさ」などをたれ流す市場原理の現場は、弱肉強食の戦場だ。経済界で今最も耳目を集める金融市場では、裏切りが、蔑みが、偏見が、欺瞞が、収奪が、疑いが、憎しみが、争いがルツボのように展開していると、証券会社員から聞いた。

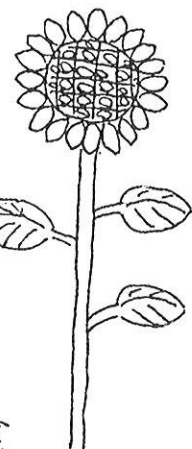
一方、児童福祉施設などの現場では、週四〇時間労働など、大人の労働権が子どもの生活権に先行して守られた結果、子どもたちに待たされる時間だけが拡大している。

利用者と提供者の対等な立場の確立などは、これまでも急務だったが未だ現場は果たせず、暴行や虐待が間断なく報道されてもいる。

子どもにも職員にも厳しい緊張関係を留保しながら、ともに克服すべき課題を定めて共有して暮らし合い、共苦しながら、人格的な対等の関係の基底を形成していく以外、AみちVはないと考えている。



バザーへの御協力 ありがとうございました。



おかげさまで無事終えることができました。
売上は564,541円でした。
来年度もバザーを予定しております。
御協力をお願いいたします。

光のこといもの家バザー実行委員会

日誌抄 = 暮らしの風景 =

1998年 4月1日 ▶ 5月31日

- 4月 幼児 6名 小学生 5名 中学生 9名 高校生 10名
措置外 3名(求職者2名 未自立1名)
- 1日 新高校生が奥秩父の民宿『滝川』へ 新たに始まる
自らが選んだ高校生活への課題と決意を確認
- 羽馬由花入所 仙道家池田保母担当
- 5日 町内杓子木の真中瑛司氏より子ども用自転車を 感謝
- 6日 江森ヘヤーサロンより散髪のご奉仕 ありがとう
- 入進学進級祝 幼稚園へ2名 小学校へ1名 中学へ
2名 高校へ4名が 楽しく賑やかに そして 高校
・中学の最終学年をはじめとして厳しい目標も・・・
- 8日 小学校 中学校 県立高校入学式 これからはじまる
それぞれの決意と志を輝かせて
- 10日 大根根藤幼稚園入園式 びかびかの園服がまぶしく
- 12日 鷺宮町の戸石幸男氏よりスキー靴一式などを 感謝
- 加須市ガールスカウトより手作りの座布団を 感謝
- 13日 町内琴寄の大谷氏野菜をたくさん ありがとう
- 14日 加須市コヤノ亨氏よりバザー用衣類を 感謝
- 17日 東京国際大学の村井美紀氏来訪 職員の現任訓練を
楽しく賑やかに開始 退職などによる職員の入れ替
えなどのない年度が連続しているマンネリ状況を動
かし 子どもとのお互いのよりよい関わりのために
- 28日 町内江森百合子氏より衣類 食品などたくさん
- 29日 町内旗井の鳥海広子氏よりおいしいお菓子を 感謝

- 5月
- 1日 職員確保のための第5回バザー準備開始
- 3日 加須市白石紀男氏より日用品をたくさん
- 4日 第13回子どもまつり 思春期の子どもたちの嵐の
ような季節のために縮小して行ってきた子ども
まつりが 小学生の制作と大宮吹奏楽団の方々の友
情出演によって音楽祭の兆しが復活 良いお天気
の園庭で 元実習生で幼稚園教諭の古川、川上さん
などお客さんやお友だちもお招きできて 団員選りす
ぐりの6名の吹奏楽とバーベキューを楽しんだ
- 6日 町内下記新田の荻野和章氏よりバザー用品を 感謝
- 8日 栗橋駅前タカラブネよりケーキをたくさん 感謝
- 幼稚園 小学校 中学校に入ればかりの子どもたち
に不安定の表現が次々に 対応に追われる
- 10日 富士見乳児院の倉田氏来訪し佳美と遊んで下さる
- 11日 町内秋間儀平氏よりバザー用品を 感謝
- 15日 町内十軒の羽鳥唱平区長よりワイシャツを 感謝
- 16日 青山学院ACF 10名が来訪し、お遊びと草取りと
- 18日 埼玉県施設長会調査研究委員会が理事長室にて
- 19日 町内道目の染谷氏より廃材を ありがとう
- 26日 第53回理事会 昨年度事業報告決算の承認など
- 27日 後援会総会
- 29日 聖霊愛児園園長安川実氏来訪 職員研修 (くら)

/// /// ———— 反 射 光 ———— /// ///

☆暑中お見舞い申し上げます☆社会
福祉事業法の抜本的改正が中央社会
福祉審議会社会福祉基礎構造改革
分科会で成案を得る時期です☆昨年
九月、米国デンバーに児童福祉の現
状を見聞してきました☆日本でも
激増中の被虐待などの子どもたちへ
の関わりを徹底に感動しました☆ク
ライシスセンターへの通報と同時に
ソーシャルワーカーと警察などによっ
て先ず子どもの身柄の確保をし、素
早く必要な診断を済ませ、身寄りや
関わりのある者を集めてのキンシッ
プケア、そしてソーシャルワーカー
と検事が共働して、少年裁判所への起
訴、親権の制限や剥奪など論告求刑、
旬日の間に判決が出て子ども安全
と利益が確保されます☆強大な親権
の前に無力な児童福祉官僚のおかげ
で子どもたちの被害は無念を重
ねます☆社会福祉事業に導入される
という自由契約、市場原理など異次
元を語る審議会によってこの国の子
どもたちはどこへ行くのだろうか☆
益々私たちの力が試されます。ご支
援を！更に！

(哲)